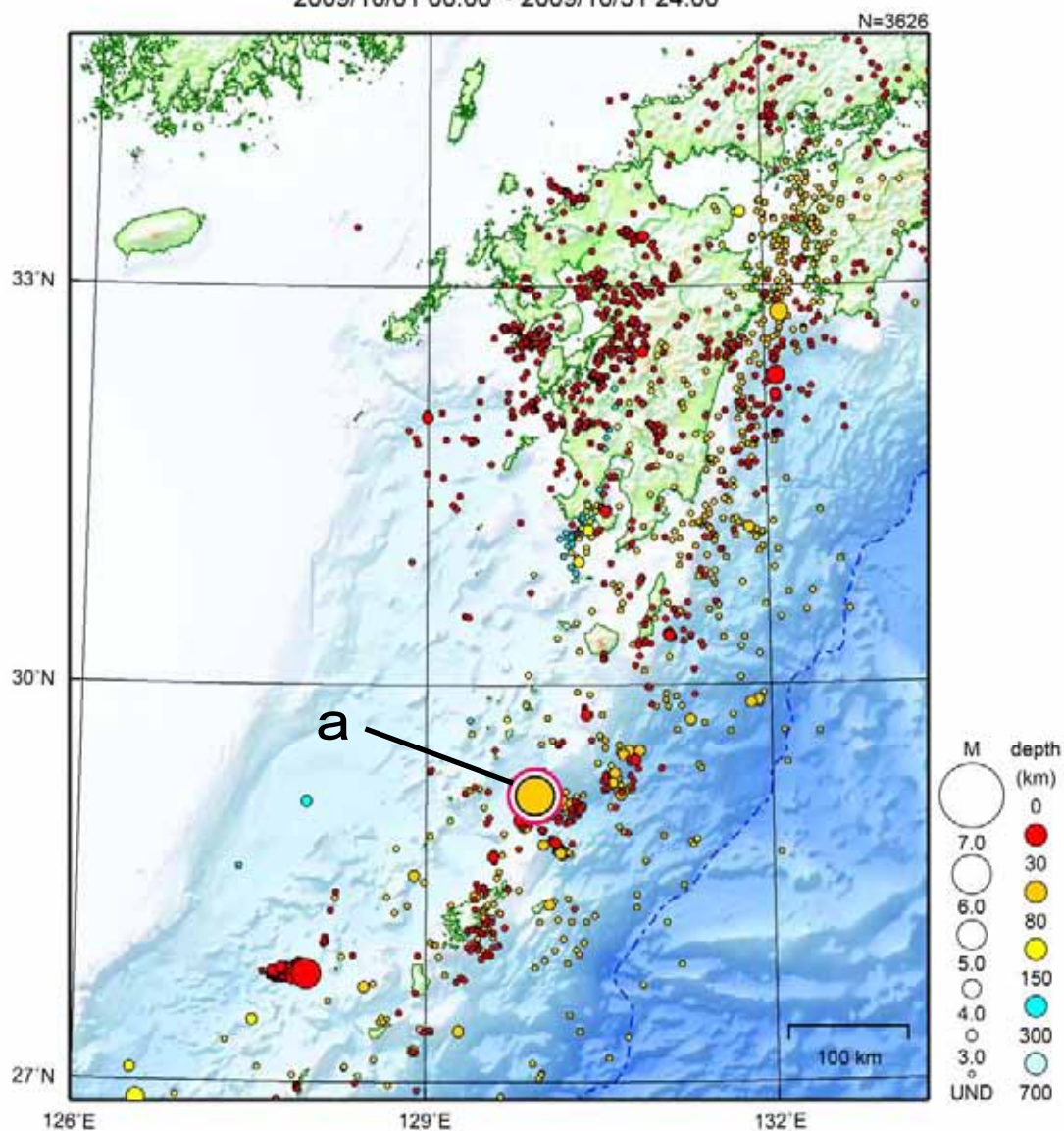


# 九州地方

2009/10/01 00:00 ~ 2009/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

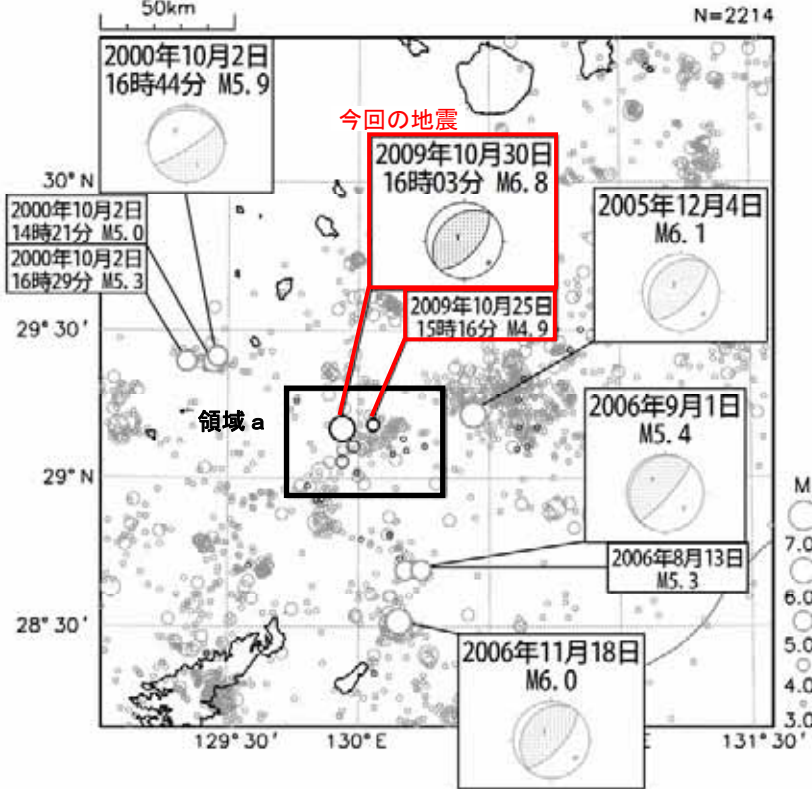
a) 10月30日に奄美大島北東沖で M6.8 の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 10月30日 奄美大島北東沖の地震

震央分布図

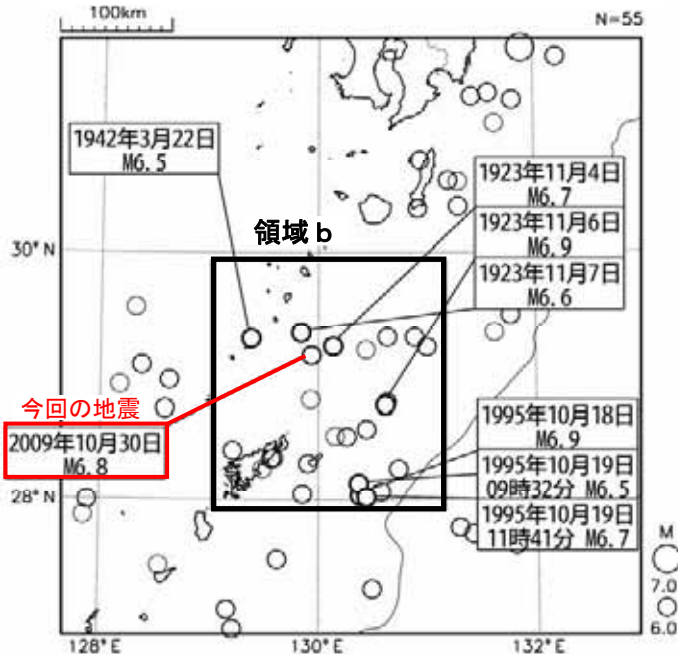
(1997年10月1日～2009年11月7日、深さ0～90km、 $M \geq 3.0$ )  
 発震機構は全てCMT解、2009年10月以降に発生した地震を濃く表示



今回の地震が発生する5日前に、ほぼ同じ場所でM4.9の地震(最大震度2)が発生していた。今回のような活動は2000年10月2日の地震や、2006年9月1日の地震の際にも見られている。

震央分布図

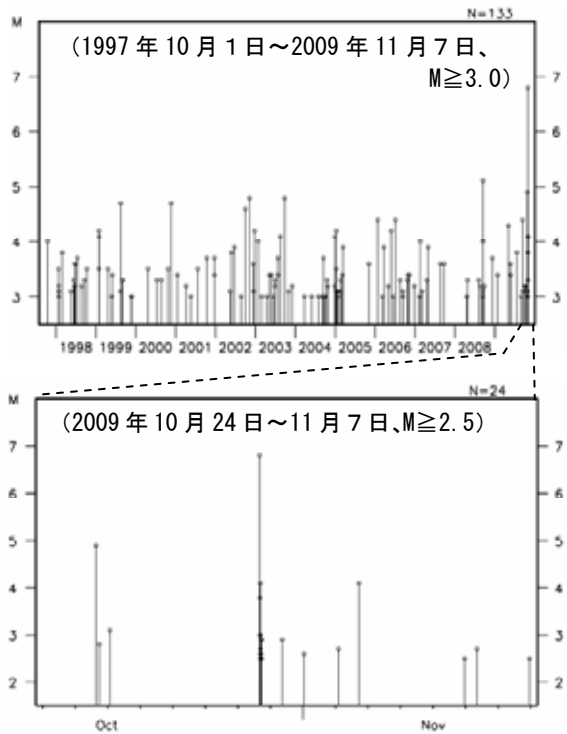
(1923年8月以降、深さ0～90km、 $M \geq 6.0$ )



2009年10月30日16時03分に奄美大島北東沖でM6.8の地震(最大震度4)が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震と考えられる。この地震により、鹿児島県で0.1m程度の津波を観測した。

今回の地震の震央付近(領域a)では、1997年10月以降、M6.0以上の地震は発生していなかった。

領域a内の地震活動経過図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の震源付近(領域b)では、M6.0以上の地震がしばしば発生しており、1923年と1995年にはM6.5以上の地震が数日のうちに複数回発生している。

領域c内の地震活動経過図

